

大川は現在、全国的な製品市場を有している。これは、需要の増大・輸送面の発達に依っている。特に、高度成長期の旺盛な家具需要に支えられ、市場拡大は実現した。この市場拡大は大川の家具製造業を発展させた要因である。

わが国の高度成長の波に乗り、大川はめざましい発展を遂げた。しかし、低成長時代を迎えた現在生産過剰状態にあり、又、公害問題等を抱えており、その将来は必ずしも樂觀できない。低成長時代においては、消極的となった消費性向をふまえ、市場調査・製品の開発・生産技術の改善等に努め、市場競争力のある産地となる必要がある。

相模大山における山岳信仰の地理学的考察

小 寺 和 代

以前から、自然と人間の生活、そして文化の関係に興味を持っていたために、卒論をその興味への第一歩とすることが当初の目的であった。そして、大山の山岳信仰を扱うことにしたのだが、それはこの信仰形態が、宗教的でないといわれている日本人の文化の最も基層を成している心情に触れているのではないかと期待したためでもあり、また、山岳信仰は教理体系の整っていない民間の信仰に起源を持つものが多く、自然と信仰の関係について考えることができるだろうと思ったためでもある。しかし、具体的によい方法がわからなかったために、この論文では文献の調査を基礎にして、信仰の成立について若干の考察、さらに信仰圏と御師集落について調査を行なった。

調査地域大山は、神奈川県ほぼ中央にある伊勢原市内の一地区であり、大山の山頂（海拔1246m）は、伊勢原市、厚木市、秦野市の市境にあっている。

この大山は古くから、民間の信仰を集めてきた山であるが、大山信仰を農耕に關した雨を呼ぶ山としての信仰をみると、相模平野に住みついた人々の間から発生したと考えられる。しかし一方で、相模湾や外房で航海神としての信仰もかなり古くからあったようである。やがて、民間信仰の山、大山には神道、仏教、そして修験道がはいつてきて、神社仏閣が建てられ、様々な形で大山信仰は展開していった。そして、江戸時代には、江戸町人や関東一円の農民たちの大山詣で、信仰の隆盛期を迎えた。「大山開導記」による近世末期の信仰圏は、関東全域をおおい、さらに福島、長野、新潟、静岡の方面へと拡大している。このように遠くまで信徒を得るようになったのは、山麓の御師集落に坊を構え、信徒の登拝の世話などをしていた大山御師たちの活動のためと考えられる。そして大山街道という参詣ルートも整備された。

その後、大山は神仏分離による混乱などを経て現在に至っている。現在、大山の集落には53軒の旅館（うち51軒が先導師旅館）があり、家族労働で経営されている。しかし夏山などの忙しい時期には2～3人から10人近くのアルバイトを頼んでいる。旅館の規模は小さいものが多く、半数以上が収容人員50名以下である。また、観光客相手の土産物店、飲食店は妻が営み、夫は勤めまたは大山名物の独楽や山菜の製造に従事している例が多い。

大山には現在、講社員が年間2～3万人訪れており、その信仰圏はだいたい関東地方である。また、

大山へ来た観光客の総数（講社員も含む）は年間 70 万人を越えている。講という形での参詣者は急激に減少するような兆はないが、おそらく徐々に減少して行くであろう。従って大山の旅館業が存続していくためには、今後さらに一般の観光客の受け入れが必要になってくるし、また実際に、大山地区では観光客をどんどん受け入れようとする動きがある。

松川扇状地における集落の変遷

— 小布施町を中心として —

小林 奈緒子

所謂、善光寺平といわれる千曲川下流に存在する長野盆地の東縁…河東地方の一中心地として発展してきたのが小布施町である。

小布施町は、紫根萩山・明覚山・雁田山との間の断層崖下に、白根山より発する松川と紫根萩山に発する八木沢川によってつくられた松川扇状地の右扇に立地する。

この扇状地上において小布施町を構成しているのは、山王島・押羽・羽場・北岡・林・町組・福原・大島・飯田・清水・矢島・中子塚・中条・雁田・松村・六川の 16 の各部落である。

これらの各集落の、成立・変遷・現在の状況を通して、それぞれの集落としての特性を明らかにしようとしたのが、この論文である。

紙面の都合もあるので、次に小布施町における 16 の集落のうち、特徴のあるものの概観を記す。

尚、各部落名の次の数字は、戸数と世帯人員数、農業就業人口である。

○ 山王島……110 戸，481 人，200 人

扇端部と千曲川沿岸沖積地上にある。氏神を河東山王島神社という。そこの大光寺は、千曲川の中州浅野島にあったといわれ、千曲川氾濫原から扇状地末端に移動してきたことを示す。

土地利用においては野菜栽培に特色が見られる。全耕地に対する野菜栽培面積は、17.7%と、小布施町における集落中で最高を示し農産物販売のうち、野菜販売による収入が第 1 位を占める農家が、25%であるのも特徴である。

○ 矢 島……78 戸，429 人，152 人

矢島堰の流末が、長く路に沿って延徳低湿地に延長し、その道路の両側に一戸ずつ並んだ模式的列村形の路村である。

氏神は、矢島郷神社といい、北方 3km 長丘丘陵の南篠井岸にある。ここは、千曲川につくった自然堤防上であるが、千曲川の氾濫により延徳への逆流は決壊されて、慶長 19 年（1614）現在の地に移転してきたといわれる。

一戸当りの平均耕地面積は、98.1a と大島に次いで多く、水田率は、37.9% と清水に次ぐ。

○ 大 島……184 戸，928 人，335 人

松代街道と、これに T 字型に交わる旧善光寺街道に路村型に成立している。元和年間の新田開発により開けた部落である。